

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	AT106／演習 E6 (Seminars E6)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	お伽草子の世界		
担当者名 (Instructor)	鈴木 彰(SUZUKI AKIRA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	JAL2310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

中世から近世にかけて広く読み継がれたお伽草子『酒呑童子』を取りあげ、一つ一つの表現を玩味しながら物語世界をていねいに読み解き、その魅力を理解する。

The course will take up representative chapters of Otogi zoshi, a work that has been read since the Middle Ages. Students will carefully read and interpret the narrative world of the work while treasuring each expression, and will gain understanding of the characteristics of the work.

授業の内容 (Course Contents)

はじめにお伽草子について概説し、演習の進め方について説明する。その後、担当者を決め、発表と質疑応答を重ねていく。担当者は、注釈書や先行研究を参照し、それを踏まえながら、表現の特質、物語の構造、諸本の違い、挿絵と本文の関係、物語を生み出しはぐくんだ環境、後世への影響などについて、それぞれの観点から分析と調査を進めて発表する。参加者全員でていねいに読解していくことによって、物語のさまざまな魅力を掘り起こしていくつもりである。なお、演習E6とは扱う作品・発表の方法・討論の内容などの点で異なるものとなる。

The course will first provide an outline of Otogi zoshi and explain how the seminar will proceed. Following this, seminar leaders will be determined, and presentations and question and answer sessions will take place. Using annotations and prior research as references, seminar leaders will analyze, investigate, and make presentations on characteristics of expression, the structure of the story, the differences among books, the relation between the body of text and book illustrations, the environment that gave birth to the tale, and influences on later generations, from the respective viewpoints of each. Through careful reading by all participants, the course aims to unearth the many attractions of the story.

授業計画 (Course Schedule)

1. 共通課題の確認、発表方法等の指示
2. お伽草子概説、『酒呑童子』関係資料の説明等。
3. 担当者による発表と討論1
4. 担当者による発表と討論2
5. 担当者による発表と討論3
6. 担当者による発表と討論4
7. 担当者による発表と討論5
8. 担当者による発表と討論6
9. 担当者による発表と討論7
10. 担当者による発表と討論8
11. 担当者による発表と討論9
12. 担当者による発表と討論10
13. 担当者による発表と討論11
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回で扱う章段を事前に下読みし、疑問点などを整理してくること。
発表・レポート作成のための準備は時間がかかるので、できるだけ早く始めること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

発表の内容(40%) / 質疑応答と各回のコメント(30%) / 最終レポート(Final Report)(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 市古貞次校注、1985 1986、『御伽草子』上・下(岩波文庫)、岩波書店 (ISBN4-00-301261-5 ISBN4-00-301262-3)

参考文献 (Readings)

1. 徳田和夫編、2002、『お伽草子事典』、東京堂出版 (ISBN:ISBN4-490-10609-2)
その他は授業の中で随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

本年度は『酒吞童子』を扱い、絵と物語の関係をさぐる。発表は個人発表の形で行う。受講生は、発表を踏まえた質疑応答に積極的に加わること。

その時点での社会状況と大学としての判断に照らして、この授業での対面式授業の停止について判断する。毎週、「立教時間」で告知する案内を必ず参照すること。

注意事項 (Notice)